



2015年3月発行 No. 104

発行者 西島啓喜 編集者 西島啓喜

発行所 〒080-0809 帯広市東9条南8丁目1-3

帯広バプテスト・キリスト教会内

http://hokkaidobap.jimdo.com pw:jbc1947

## 巻頭言

### 「愚直に礼拝を捧げる民」

北海道バプテスト連合 会長 西島啓喜（帯広教会）

「わたしは彼らのために、同胞の中からあなたのような預言者を立ててその口にわたしの言葉を授ける。彼はわたしが命じることすべて彼らに告げるであろう。彼がわたしの名によってわたしの言葉を語るのに、聞き従わない者があるならば、わたしはその責任を追及する。ただし、その預言者がわたしの命じていないことを、勝手にわたしの名によって語り、あるいは、他の神々の名によって語るならば、その預言者は死なねばならない。」（申命記 18:18-20）

モーセが、約束の地を目の前にして、イスラエルの民に残した言葉です。この箇所は、礼拝における聞くものの責任を厳しく問うていますが、語るものには一層の責任が問われている、と受け止めます。

#### ●説教は神の言葉か？

講壇で語られる言葉が、本当に神の言葉かどうか、私達にはどう判断できるのか？説教の教えるところは、「講壇で語られる言葉は厳密に聖書によって規制されている。それゆえ講壇で語られる言葉は神の言葉となるのだ」。つまり、講壇で語られる言葉が人生訓や心理学、あるいは、哲学やイデオロギーから来っていないか、私達は厳密に吟味しなくてはならないということです。

#### ●礼拝とは何か？

礼拝は、原語の「リタージ」（民のつとめ）から来ているそうです。礼拝は民のつとめ、すなわち「語るものは語ることによって、聞くものは聞くことによって礼拝の勤めをなす。」とされています。礼拝には第3者的な参加の仕方はありません。双方の真剣な勤めが礼拝なのです。

#### ●礼拝のはじめ。

堀川弘英氏によると、最初の礼拝は、マタイ28章の復活の主**に弟子たちが打ち揃って出会ったこと**に始まると言います。その意味は、礼拝とは、①主の招きに因るもの  
②共同体として捧げるもの、であるということです。

もう一つ、礼拝と教会について示唆を与える大事な出来事がペンテコステです。この日は「教会の誕生日」と言われています。

すが、教会があつて礼拝を守っていたのではなく、**礼拝を捧げる民がいて、そこに教会が形成された**という順序が大切であるということです。

#### ●愚直なクリスチャン

ローマ時代のクリスチャンたちの生活について、こういう記述があるそうです。

「私達の中には自分の信じている宗教の長所を言葉で説明できない無学な者や労働者や老婆もいる。しかし、彼らはそれを行為に表している。彼らはなんの演説もしないが、善いことを実行している。打たれても打ち返さない。物を盗まれても訴え出ない。彼らは求めるものに与え、隣人を自分自身のように愛している」

彼ら、名もないクリスチャンの黙々とした信仰生活、聖書に忠実な愛に実践の積み重ねによって強大なローマ帝国さえ動かす「パン種」になっていったのです。堂々と、または華々しい伝道活動などできなかった困難・迫害の時代に、愚直に礼拝を守り、聖書の言葉をそのまま実行し、この世の習慣に習わない生活をする、そのことが即、伝道になっていったことでしょう。

#### ●まとめとして

教会は、外圧には意外と強い。しかし、内部からの崩壊には極めて弱い、と言われます。愚直に礼拝を捧げているかぎり教会は簡単には倒れない、かえって、そこに神ご自身が教会を建ててくださる。人間的な努力やばかりごとにとよるのではなく、神の言葉が忠実に語られ、聞かれていることが、教会を建てていくただひとつの方策であることを教えられます。

### ●離任に当たって 三宅真嗣、友子 牧師（リビングホープ教会）

このたび、リビングホープ教会での十年間の働きを終え、北海道から離れることになりました。これまで、物心両面で支えて下さった連合諸教会の教会員の皆様にお礼申し上げます。シンガポール留学中、加藤亨先生から、リビングホープ教会の紹

介を受けました。東京育ちの私にとって、北海道は北国というイメージがありました。ところが、北海道の人にとっては、世界の中心が北海道という意識があり、郷土愛に溢れているようです。そして、住んでみると、なるほど、春夏秋冬がはっきりし、

豊かな大地であり、食材の宝庫、泉質の良い温泉も豊富にあります。そして、周りの人たちは、おらかな人柄で、私たち北海道に縁もゆかりもない者を快く迎えてくれました。東京から千歳の空港に着くと、ホッとする気持ちがありました。子供たちも道産子として育ち、第一の故郷となっており、彼らの心の中にいつも北海道の風景や人々の優しさがあることでしょう。

リビングホープ教会での働きも、様々な乗り越えるべき課題がありましたが、みんなで協力し合い、楽しみながら過ごすことができました。礼拝や祈祷会の後、「今日も教会の仲間と過ごすことができ、楽しかった。」という幸せな気持ちになりました。また、年月を重ねるごとに、連合の皆さんとも知り合いになり、親しく声をかけてくださったり、時には、実質的なサポートをもって、教会や私たち家族を励ましたりして下さった愛情を、決して忘れることができません。また先輩牧師や同年代の牧師仲間たちにも恵まれ、良き学びや楽しい交わりを持つことができました。北海道を離れ、新しい場所に行くにあたっ

て、主イエスが、派遣した弟子たちに語った言葉が、今、心に響いています。「何も携えるな。杖も袋も錢もパンも・・・」ルカ9：3 ひたすら、神にだけ頼ってゆきたいと願っております。私たち家族のことを、祈りの片隅に加えて下さるなら幸いです。



3月22日、10年間リビングホープバプテスト教会で牧師としてお働きくださった三宅真嗣・友子両牧師と子供たちを囲み送り出す会を開きました。何年かぶりにこの時を覚えて集ってくださった方やご近所の方と共に感謝な時を過ごすことができました。お迎えした10年前はお二人でしたが、3人の子供たちと共に5人となって送り出せることを感謝しています。啓くんが「20年後に牧師になってこのリビングホープ教会に戻ってきたい」と力強く言うてくれて感動しました。三宅牧師一家とリビングホープバプテスト教会のこれからの歩みの上に主が共にいてくださり、導いてくださいますことを感謝します。  
(定免直末)

## ●『祈り祈られ』～2014年度教役者家族退修会報告 札幌教会 石橋大輔 副牧師

「ここに来ると、この日のために一年間牧師として頑張ってきたんだなあって思うんです」。参加されたある牧師がそのようにつぶやかれました。

1月6日から8日まで、十勝川温泉を会場に教役者家族退修会がもたれ、連合内の11教会から44名の牧師家族が出席されました。一堂に会し、顔を合わせただけで、どこか安心できる“同労者”たちとの集いが、牧師たちにとって、またその家族にとって、どれほどか癒しと励ましになるかは、筆舌に尽くしきれません。

冒頭に紹介した牧師のつぶやきを聴きながら、「ああ本当にアーメンだなあ」と感じました。それは、何か頑張っている報酬としてこの退修会を捉えているというのではなく、そこに集まることができること自体が、連合諸教会の皆さんの祈りと献金に支えられていることをつくづく感じられるということです。確かに、気の知れた仲間と、温泉でゆっくり過ごすことができることは、私たちにとって具体的な肉体的・精神的な癒しとなっています。しかし、それ以上に、そこに集った皆が、それぞれ送り出して下さった教会を覚え、連合

の諸教会を覚え、そしてそのお一人お一人の祈りを感じながら、その時を過ごすことができること、それがこの退修会の醍醐味であると言えるかもしれません。

プログラムの中で、繰り返し参加者の口から語られたのは「連合内の特に無牧師の状態にある釧路教会、室蘭教会、帯広教会のために祈りましょう」という言葉でした。私たちは“祈られる者”であり、“祈る者”であることを、この退修会でまた確認させられました。そして、そのように祈り合える仲間を、神様がこの北海道に与えて下さっていることを、心から感謝いたします。





## “Shine like stars in the dark world” (世にあって星のように輝く) ×

平岡ジョイフルチャペル 日高嘉彦 協力牧師

今回の「北星学園大 元朝日記者雇用継続」をめぐる事件では、「思想信条の自由」や「言論の自由」ひいては「信教の自由」がかつてない危機に瀕していると感じずにはられません。自分の意に沿わない人物を雇用していることを理由に、在校生や受験生へ危害を及ぼすという内容の脅迫の手紙や電話が大学に送りつけられ、元記者の家族の写真をネットにさらし罵詈雑言があびせられています。名のある週刊誌が元記者に対し「非国民」「売国奴」のレッテルを貼り、サイトを見ると北星学園がキリスト教系であり日の丸君が代を卒業式や入学式で掲揚しないこと、学園付属高が韓国に修学旅行をしていることを理由に「アカ」呼ばわりしています。一方的なラベリングによって異なる意見や立場を封殺する社会風潮が目立っています。

しかし希望もあります。北星学園への不当で一方的な攻撃を座視せず、負けるなと声を上げる人がいたことです。北星を孤立させないために学外に「負けるな北星！の会」が、学者・文

化人・ジャーナリスト・弁護士等が呼びかけ人となって立ち上がり、全国の大学でも学部教授会や有志による北星を支援する決議・声明が相次いで出されました。キリスト教界からも、札幌キリスト教連合会を初め日本キリスト教会、北一条教会や北光教会などの各個教会、個人からも声明や応援メッセージが寄せられています。そして何よりうれしいことは、戒厳下で行われた一般入試に、昨年を上回る志願者が与えられたことです。

このような時代だからこそ、私たちはどんな立場に対しても耳を傾け、寛容と謙虚さをもって真理を共に追求する姿勢が求められています。またこのような動きをつくり出している社会の底流にある不安や怒りに耳を傾け、希望や慰めを語る役割が教会にさらに求められています。巻頭の題は北星学園大学のスクールモットー（フィリピ2：15）ですが、一人の女性宣教師によって始まった北国の小さな星が、闇が深ければ深いほど一層輝きを増すよう今後も注視し、支えていきたいと願います。

## ●野田村だより 鮫バプテスト教会 林 健一 牧師

野田村仮設支援をおぼえてお祈りとご支援に心から感謝申し上げます。2011年8月から始まったこの活動も今年の3月で43回目となりました。野田中・泉沢で行われる毎月のお茶会もすっかり定着しました。私たちが到着するまえから外で待っていてくださる姿を最近よく目にします。それだけ皆さんがお茶会を楽しみに待っていてくださるのだと嬉しく思いました。

今年の3月11日であの震災から5年目に入りました。お茶会に参加される方たちの顔ぶれも始めたころとは大分変わってきています。また以前は来られなかった方が参加されるようになりました。4年という歳月が過ぎたことをあらためて感じました。そこには仮設を出る方と残される方、また、仮設を出ていったけども新しく入居した地域での生活に戸惑いや不安を覚える方等、まだ復興とはいえない被災地の現実があることを皆さんに知っていただきたいのです。

この活動が野田村の皆さんにとってどんな意味があり、支え、励ましになっているのか？自己満足になっていないだろうか？絶えず私のなかでは問いかけが繰り返されていました。私たちチームと野田村の仮設をコーディネートし続けて下さっている社会福祉協議会の小野正子さんが「皆さんこのお茶会を楽しみに待っていてくださるんですよ」と「リラックスしてお茶とお話しができる場所はここしかないんですよ」と話して下さいました。

日常の何気ない一コマが未だに被災地ではできない。そういう現実があるのです。瓦礫が片付けられていき道路や家が建っていく、しかし街の再建はそれだけではない人と人のつながりを築いていくその場所をつくっていくお手伝いをしていくのが、私たちの活動していく使命、意味であることに気づかされました。「一回は来てくれる。でもバプテストさんのように継続して来てくれる団体さんはありません」と教会だからこそ出来る支援があるのだと野田村の皆さんから教えられました。

現在、野田村には仮設が4ヶ所、合わせて99世帯の人たちが住んでおられます。村の計画では15年度末を目標に復興住宅の建設が進められています。しかし、計画どおりに進んでいないのが実情です。自力再建を目指す人たちには資材の値上がり、大工さん不足など厳しい現実があります。復興のためにお祈り下さい。

私たち青森・岩手にある小さい・弱い教会がこうして野田村を訪問して活動を続けてこられたのは北海道連合の諸教会の皆さまが祈りと犠牲を惜しまないで支援、共に歩き続けて下さったゆえです。心から感謝申し上げます。私たちは小さくても、弱くても主にあるつながりのなかで豊かな愛の業を行うことができることを教えられました。これからも皆さんのお祈りとご支援をよろしくお願い致します。心から感謝申し上げます。

## 2015年 北海道バプテスト連合 定期総会案内

いつも連合のためにお祈りとお支えを心から感謝いたします。以下のように2015年定期総会を招集いたします。祈りつつご準備ください。なお、代議員登録その他の詳細は別紙にてご確認ください。

連合会長 西島 啓喜

日 時 2015年4月29日(水) 9:30～15:30

会 場 札幌バプテスト教会・礼拝堂

総会牧師 岩波 久一 牧師

議長団 議長 小林 俊一 氏、副議長 本多 啓示 氏

代議員 各教会3名以内(連合規約12条)

旅費補助 代議員の旅費を補助します。宿泊費補助の対象は、函館、函館美原、釧路、帯広、連合役員、議長・副議長です。

- 議 案
- ① 連合役員交代の経過報告
  - ② 2014年度活動報告
  - ③ 2014年度決算報告および監査報告
  - ④ 2015年度活動計画
  - ⑤ 2015年度予算
  - ⑥ 2015年度定期総会日程および会場
  - ⑦ 次期総会役員選出
  - ⑧ その他

### ♪連合総会プログラム♪

- 9時半～各会
- 10時半～開会礼拝
- 11時～議事1(報告)
- 12時半～昼食
- 13:15～議事2(計画)
- 15時～閉会礼拝

教勢報告 各教会20部印刷して総会当日ご持参ください。当日、冊子にして各教会に配布させていただきます。総会に欠席される場合は、4月26日(土)までに書記(田代・苫小牧 教会)まで、教勢報告をご送付ください。「主な行事」は、その教会独自のプログラムなど、連合の諸教会で分かち合いたいと思われる行事などをお書きください。「祈りの課題」は、与えられた幻や取り組みなどをご自由にご記入いただき、連合諸教会で分かち合っていきたいと思っております。

※本年も議事に先立ち、各会の総会時間を確保しました。ぜひこの時間からの出席をお願い致します。

### ●「北海道の伝道を考える懇談会」開催について

役員会で、昨年の「宣教会議」の続きを何らかの形で継続できないだろうか話し合い、連合総会の前日、**28日の夜**を利用して行うこととなりました。旅費・宿泊費の補助はできないので、任意参加ということになりますが、是非、多くの方の参加を頂き、北海道のこれからの伝道を考える一時としたいと考えています。どうぞよろしくご参加をお願いいたします。

日時:2015年4月28日 18時から20時 場所:札幌バプテスト教会 参加者:連合諸教会の教会員(人数は制限しません)